

～航空局からのお知らせ～

[2024年6月25日]

★自動METAR/SPECI報を紹介します～気象庁より～

気象庁航空気象管理室です。

航空機を安全に運航するには、風向風速、視程、雲の高さなどの気象情報は必要不可欠です。今回は気象庁で行っている航空気象観測の完全自動化導入の取り組みを紹介します。

気象庁では、きめ細かく高精度な情報を効率的に航空関係者のみなさまに提供するため、空港における航空気象観測の完全自動化（以下「完全自動化」という。）の導入を順次進めています。平成29年3月8日に、与論及び与那国空港の終日、関西国際及び福岡空港の夜間早朝時間帯に導入したのを皮切りに、現在、全国29空港において完全自動化を実施しています。また、令和6年7月11日にはさらに屋久島、沖永良部及び久米島空港の終日に完全自動化を導入する予定です。

完全自動化において報じる自動METAR/SPECI報は、最新の観測技術やアルゴリズムの開発・導入により、従来の目視観測を含むMETAR/SPECI報に比べ、現象及びその変化をよりの確かつ客観的に観測でき、滑走路付近の気象状態を適切に通報することができます。特に一部の離島空港などでは、従来はSCAN報（航空気象観測所気象報）形式により1時間に1回の定時にしか通報していませんでしたが、完全自動化導入により国際標準のMETAR/SPECI報形式での通報に変わり、また気象現象の重要な変化があった場合に定時以外にも観測成果を通報する特別観測通報も開始しました。これにより、気象の変化を適時・的確に捉えた情報の利用が可能となり、運航改善（引き返しや着陸のやり直し等の減少）につながることを期待されます。加えて、夜間も自動METAR報を通報するため、救急搬送等にも即時に対応できるなど、利便性は向上すると考えられます。

一方で、器械による自動観測通報は、従来の目視観測による観測通報との差異や特性を理解して利用することが求められます。従来のMETAR/SPECI報と比較した自動METAR/SPECI報の主な特性は以下のとおりです。

- 完全自動の通報であることを示すため、観測時刻の次に「AUTO」を付加します。
- 視程は視程計又はRVR観測装置の設置場所での観測値のため、滑走路付近の状況をよく表します。視程計又はRVR観測装置の設置場所だけに霧がある場合（又はその逆の場合）などは、従来の目視観測による卓越視程と大きく異なる場合があります。
- しゅう雨性（SH）や周辺の現象（VC）などは観測しません。
- 降水時の雨（RA）、雪（SN）、みぞれ（RASN/SNRA）の判別は気温と湿度により行います。あられ

(GS)、ひょう (GR) 及び着氷性 (FZ) の判別は行いません。

●雲底高度は雲高測定器 (シーロメーター) の観測値により算出するため、シーロメーター上空を通過しない雲は観測しません。

●雲形は別途雷監視システム (LIDEN) や気象レーダーのデータを使用して判別する CB 及び TCU 以外観測しません。

このほか、自動 METAR/SPECI 報の詳細は気象庁 HP の航空気象観測の完全自動化のページをご参照ください。

https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kouku/2_kannsoku/27_jidoka/27_jidoka.html

気象庁では、今後も完全自動化の導入拡大を進めていく予定です。また、航空機の安全な運航のため、適切かつ的確な情報発表や提供に引き続き努めてまいります。

本件についてご不明な点等ございましたら、気象庁総務部企画課航空気象管理室 (電話 03-6758-3900 内線 2247) までお問い合わせください。

※本メールは6月25日(火)時点で航空局へ電子メールアドレスを登録頂いている操縦士の皆様にお送りしております。

※これまで配信したメールマガジンは、こちらから確認できます。

https://www.mlit.go.jp/koku/koku_tk10_000012.html#backnumber

※メールアドレス変更や配信停止の場合は、お手数ですが本メールに返信する形でご連絡をお願いいたします。

国土交通省 航空局 安全部安全政策課

MAIL : hqt-kogataki@mlit.go.jp

TEL : 03-5253-8111

小型航空機安全対策係 (内線 50135)

特定操縦技能審査担当 (内線 50136)

～X(旧 Twitter) もやっています～https://twitter.com/mlit_kogataki
